

ねじれて咲きます — ネジバナ —

10～30cmぐらいの草丈で、5～8mm程度のピンクと白のツートンカラーの小さな花を20個以上付けて咲く花があります。その小さなかわいらしい花が螺旋階段を登るようにねじりながら、下の方から咲き上がっていきます。ねじれて咲くため『ネジバナ』という名前がつけました。ひとつひとつの花をよく見るとランの形をしています。ランの仲間ですが、日当たりがよく、やや湿り気もあり、どこにでもある開けた野原や芝生の中に生育します。

左右の写真を見比べてください。お気づきになりましたか？そうです！ねじる方向＝巻き方が反対なんです。ピンク色の濃い右のネジバナは、真上から見ると“反時計回り”、左のネジバナは“時計回り”なのです。アサガオの蔓などは、ねじる方向が決まっている場合がほとんどですが、ネジバナはこだわりが全く無いようで、“時計回り”“反時計回り”が隣同士で咲いていることもありますし、中には途中からねじる方向が逆転して咲いている個体もあります。

ネジバナは、なぜねじるのでしょうか？

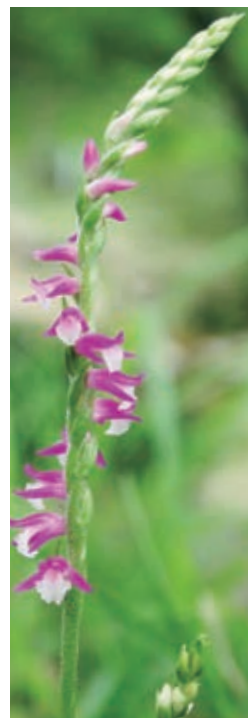
「花が全部一方向に咲くと茎が傾くので、わざとねじるように花を付けるようになった」「細い花茎にひねりを入れることで強度を増している」「花の向きを調整して、ハナバチが隣の花に移動するのをコントロールしている」などいろいろな説があります。

陶史の森にも多くのネジバナが咲きます。そのねじれ方に注目して観察してみてください。



▲ネジバナ
(時計回り)

▼ネジバナ
(反時計回り)



森の

日記

「この鳴き声は…？」

5月22日(日)にバードウォッチングを行いました。陶史の森では毎月第4日曜日に開催していますが、4月は雨天により中止したため、今年度最初でした。ヒヨドリ、サンショウクイ、ウグイス、キビタキ、エナガ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロなど計17種類の野鳥を観察できました。森を歩きながら野鳥の鳴き声を聞き、立ち止まって野鳥の姿を探し、説明も聞きました。



陶史の森は自然環境保護地域です。動植物や石などは絶対に採らないでください。また、ペットの同伴はご遠慮ください。

教室のご案内

7月

●バードウォッチング (要申込 定員10人)

7月24日(日) 午前9時～11時30分
夏の野鳥を観察します。※雨天中止

8月

●川の生き物教室 (要申込 定員10人)

8月7日(日) 午前9時～11時30分
川の生き物の観察と飼育方法を学びます。
※ぬれてもよい服装で参加してください。

●バードウォッチング (要申込 定員10人)

8月28日(日) 午前9時～11時30分
夏の野鳥を観察します。※雨天中止

※新型コロナウイルスの感染状況により中止になる場合があります。